

海外発注可
納期相談
企画力自信有
コスト相談
オンラインワン技術
メイドインジャパン
試作可小ロット
量産対応



工場内設備の再編も検討中

業務内容

ニッチな原料に
挑戦する中小

トウゴマから精製するヒマシ油やヒマシ油をアルカリ酸化したセバシン酸を生産する。ホットメルト接着剤やナイロン610の原料、潤滑油などのほかエンジニアプラスチックの強化剤などとして使用されている。多様な分野で使用される材料だが、石油や砂糖由来のバイオエタノールなどに比べて一般的知名度は低い。そのヒマシ油を創業者が祖業に選んだ理由について、「ニッチな原料であれば中小でも開発できるから」と今川和明社長は語る。トウゴマの1大産地であるインドで原油を調達し、本社工場（八尾市）で精製している。

強み
量産化までの
一貫体制を整備

ヒマシ油の精製で独自のアルカリ脱酸化、色素成分のアルカロイドを除去する脱色精製方法を確立。ラボでの試作を経てパイロットプラントで試作、スケールアップ、量産化などを一貫してできるのが強みとしている。非可食のトウゴマから生産するため、環境配慮型の製品という点も訴求ポイントだ。一方で、原材料の安定調達は永遠の課題である。天産物なため天候に左右されるほか、政治問題や輸送方法、為替などに影響されることも少なくない。ただそういった仕事上で発生する障害を乗り越えることは、メーカーの経営者として醍醐味を感じるところ。今川社長は「こんなにおもしろいことはない！」と目を輝かせる。

品質管理

火災事故を契機に
ISO9001を取得

化学メーカーであることから、工場の安全操業を第1としている。契機となったのは、平成5年8月夏休み中に本社内の倉庫で発生した火災事故である。今川社長は、「なんで事故なんて起きるんや！」という思いでいっぱいになった。事故を2度と起こさないことを胸に誓い、ISO9001の取得に動き出す。「ISO9001という目標に向けて、社員の意志を統一したかった」と今川社長はふり返る。関西の大手化学メーカーから人材を招き、ISO9001の策定を一任。事故から約1年後の平成6年にISO9001を取得した。



品質管理を重視

今後の展望

生産体制の
効率化に取り組む

環境意識の高揚から、環境への負担が少ないバイオマスへの需要が高まっている。トウゴマ由来のヒマシ油も今後、伸びていくと見ている。原料の安定調達を進めるのはもちろんのこと、八尾工場、三重工場の生産体制の効率化と適正化を図り、BCP体制を強化、精油工場の新増設を終え、次は八尾工場で化成品の生産棟のリニューアルを検討中。またニッチな石油化学製品分野での新商品の開発も進めている。持続可能な地球環境と自社の創業100周年の事業再構築に向けて、日々新たな課題に取り組む。

COMPANY PROFILE

豊国製油株式会社

大阪26 ISO 9001

当社の
歴史

昭和26年に大阪市東住吉区で起業し、当初は多様な食用油を扱っていました。工業用のヒマシ油の生産も始め、そこから誘導されるセバシン酸にも進出。高品質化と積極的な投資を進めたことが功を奏し、セバシン酸は当社の主力製品に成長しました。ヒマシ油とセバシン酸は植物由来の製品として高い評価を受けています。

エステル化、ポリエステル反応技術を主力技術にユーザー視点からのものづくりを積極的に展開します。

代表取締役社長 今川 和明さん



■主な事業内容

ヒマシ油、セバシン酸とその誘導体製品の製造・販売、OEM事業

■主な取引先（納入先）

ウレタン樹脂メーカー、医療機器メーカー、潤滑剤メーカー、医薬品メーカー、化粧品メーカー

住所／〒581-0092
八尾市老原4-170
TEL／072-949-4121
FAX／072-949-9124
創業／昭和26年11月
設立／昭和26年11月
資本金／9,200万円
従業員／98名

<http://www.hokoku-corp.co.jp/>